

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 森と木と水の環境教育推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部恵みの森づくり推進課緑化推進係 電話番号：058-272-1111 (内 3035)

E-mail：c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 25,750 千円 (前年度予算額：9,450 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,450	0	0	0	0	0	9,450	0	0
要求額	25,750	0	0	0	0	0	25,750	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「ぎふ木育30年ビジョン」に基づき、地域の自然を学び親しむ活動や森林づくり等の活動を体験する「緑と水の子ども会議」の開催や、市町村が主体となって幅広い世代を対象に行う森林環境教育を行う。

(2) 事業内容

① 学校提案事業

- 補助対象者：市町村、学校法人、国立大学法人等
- 補助率等：10/10 (上限 500 千円 (1メニュー当たり上限 150 千円))
- 補助対象経費：学校独自で企画する環境教育活動等経費

② 市町村企画事業

- 補助対象：市町村
- 補助率等：補助対象経費が 2,000 千円以下の部分は 10/10 以内、補助対象経費が 2,000 千円を超える部分は 1/2 以内
但し、1 事業当たり 500 千円を下限、5,000 千円を上限

○補助対象経費：市町村が自ら企画する事業に要する経費

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ森林・環境基金充当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	25,750	森と木と水の環境教育推進事業費補助金
合計	25,750	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

②美しく豊かな環境の保全・継承

(環境教育の推進、担い手の育成・確保)

第3期岐阜県森林づくり基本計画

(3)人づくり及び仕組みづくりの推進

(2) 国・他県の状況

森林環境税は、現在 37 府県で導入している。

(3) 後年度の財政負担

課税期間である令和 8 年度まで税収に応じて事業を実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村、学校法人、国立大学法人等

「ぎふ木育」を推進する学校独自の取組を支援しており、学校が市町村等と連携し実施していることから妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	森と木と水の環境教育推進事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村、学校法人、国立大学法人等 （理由）ぎふ木育を効率的、効果的に推進するため
補助事業の概要	（目的）ぎふ木育の推進 （内容）学校、市町村が独自に企画する取組を支援する。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 （内容） ① 補助対象経費の 10/10 以内（ただし、1 校当たり 500 千円、1 メニューあたり 150 千円を上限とする） ② 補助対象経費の 2,000 千円以下の部分は 10/10 以内、補助対象経費が 2,000 千円を超える部分は 1/2 以内（ただし、1 事業当たり 500 千円を下限、5,000 千円を上限とする） （理由）上限については過去の実績等により算出
補助効果	ぎふ木育の推進
終期の設定	終期令和 8 年度 （理由）清流の国ぎふ森林・環境基金事業の終期

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

ぎふ木育を推進するため、学校が独自に企画する取組を 25 校及び市町村が独自に企画する取組を 11 市町村で実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H28)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R8)	
					達成率	
実施学校数	17 校	20 校	25 校	25 校	25 校	80%
実施市町村数	—	4 市町村	4 市町村	11 市町村	11 市町村	36%

	H30 年度	R 元年度	R2 年度
補助金交付実績	1,964 千円	2,476 千円	5,938 千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	学校独自に企画する取組が増加し、学校が主体となった「ぎふ木育」を推進することができた。また、市町村企画事業により、学生だけでなく幅広い世代を対象とした木育の推進を図ることができた。 指標① 目標：20校 実績：25校 達成率：80%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	既存のメニューでは対応できない学校や市町村独自に企画する取組を支援し、ぎふ木育を推進していることから必要性が高い。
<p>・事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり (単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり (単年度目標 100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない (単年度目標 50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない (単年度目標 50%未満)</p>	
(評価) 1	20校及び4市町村が実施し、概ね期待どおりの効果が得られている。
<p>・事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	事業主体を市町村等とし、事業の効率化が図られている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 当事業の実施地域に偏りがある。また、学校や市町村独自の取組を企画するにあたり、ぎふ木育の学びとして全体をコーディネートできる人材が必要。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き当事業を市町村等に周知し、木育推進に取り組んでいく。また、学校や市町村が企画内容について相談できるよう、森林総合教育センターと連携していく。</p>
--